

特集

平和への願いを未来へ



太平洋戦争の終戦から今年で77年目を迎えます。先の大戦では、日本人はもちろん、世界各地で多くの方が犠牲となりました。市内からも多くの方が戦地へと送り出され、帰らぬ人となりました。そんな悲しみの記憶が、時間と共に失われつつあります。

今回の特集では、市内に残る戦争の記録や当事者の話から、当時の悲惨な体験や記憶を知り、命の尊さや平和について考えていきます。

問い合わせ 福祉課社会福祉係 (プラザけやき内 ☎37-1123)



1小笠地区慰霊碑(フガク工機(株)北側) 2終戦を伝える昭和20年8月15日の新聞 3千人針:戦地に赴く人のお守り。中央に「五銭」と「十銭」の硬貨が縫い付けてあります。 4昭和15年の堀之内駅(現JR菊川駅):中央右端が駅舎。駅舎の左側に軍事物資を積み下ろすための作業場が作られました 5菊川地区慰霊碑(舟岡山招魂社内) 6古谷作業所での竹槍教練の様子:本土への空爆が激しくなる中、女性たちは竹槍の練習を行い、決戦に備えました。